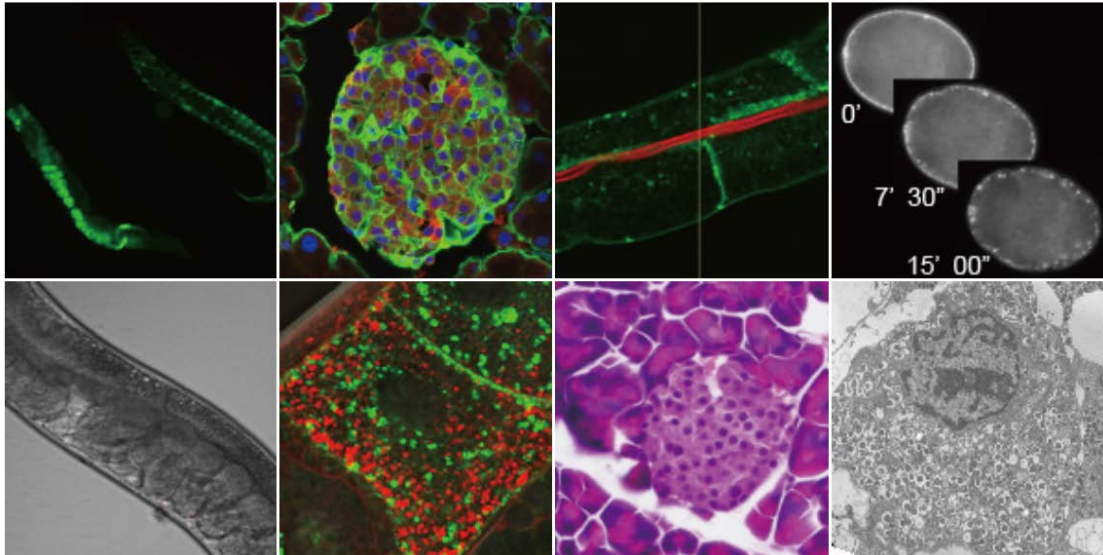




群馬大学 生体調節研究所 細胞構造分野



私たちの研究室では、線虫 *C. elegans* やマウスなどのモデル動物を駆使して
内分泌代謝や動物の発生など高次生命現象における細胞内物質輸送の
生理的役割と分子メカニズムの解明を目指しています。



1) 研究室構成及び紹介

私たちの研究室では、線虫 *C. elegans* やマウスなどのモデル動物を駆使して生きた動物そのものにおける内分泌代謝のメカニズムや動物が発生する際の細胞内物質輸送の役割と分子メカニズムについて遺伝学的手法を駆使して研究しています。

2) 現在の研究テーマ

現在は線虫研究の遺伝学的利点を活かして低密度リポタンパク質の分泌や細胞内への取り込み、受精における調節性分泌顆粒の形成や分泌や細胞の極性形成に関わる新しい遺伝子の探索と解析を行っています。また、このようにして得られた新規遺伝子についてほ乳類における類似遺伝子の同定、解析及びノックアウトマウスの作製を行い、ほ乳類の個体における分子機能とその生理的役割について解析を進めています（ホームページを参照）。

私達の研究室では、生きた動物における分子イメージングと遺伝学的手法を組み合わせて研究を行っており、これまでわかっていなかった生命現象や新しい遺伝子の役割を次々と発見しています。また、経験豊富な教官が多いので手厚く指導してもらえ、深く研究活動を行うことが出来ます。生命科学のフロンティア研究に興味のある人を歓迎します。

連絡先（教授 佐藤健）：Tel：027-220-8843 e-mail：sato-ken@gunma-u.ac.jp

ホームページ：<http://traffic.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

参考文献：Sato M & Sato K. *Science*. 334, 1141-4. (2011).